

第5章 市民アンケート結果（抜粋）

1. 市民アンケート結果（抜粋）

本計画策定にあたり、公共施設に対する市民意識を調査するため、市民アンケートを実施しました。本章では、いすみ市公共施設に関する市民アンケート調査結果報告書の一部を掲載しています。

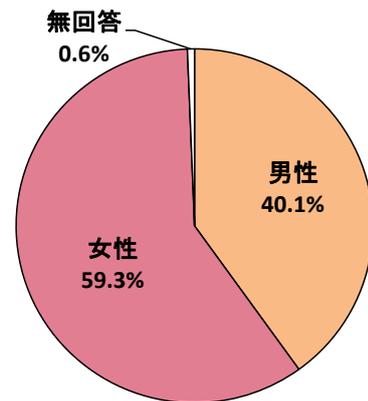
○実施方式

調査期間 : 平成28年9月1日（木）から平成28年9月30日（金）
 調査対象 : 平成28年8月1日時点において、18歳以上のいすみ市民2,000名
 実施方法 : 郵送による無記名アンケート調査方式
 有効回収数 : 784件（有効回収率39.2%）

<回答者の属性について>

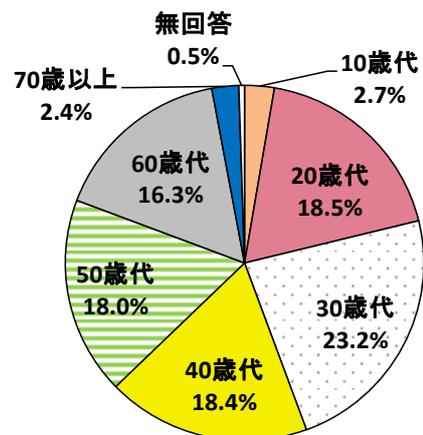
1. 性別

	回答者数	構成比
男性	314	40.1%
女性	465	59.3%
無回答	5	0.6%



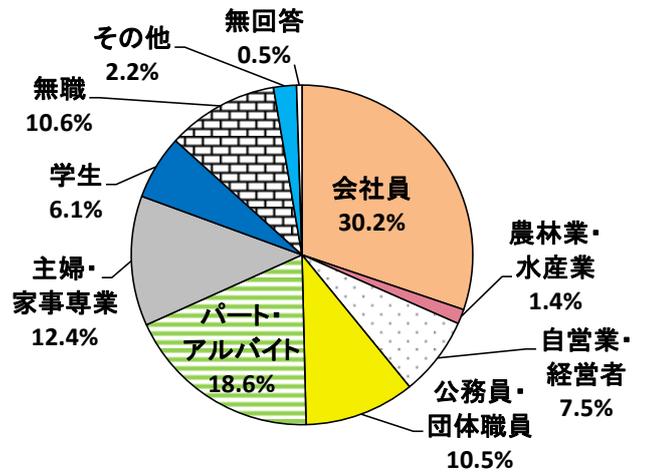
2. 年代

	回答者数	構成比
10歳代	21	2.7%
20歳代	145	18.5%
30歳代	182	23.2%
40歳代	144	18.4%
50歳代	141	18.0%
60歳代	128	16.3%
70歳以上	19	2.4%
無回答	4	0.5%



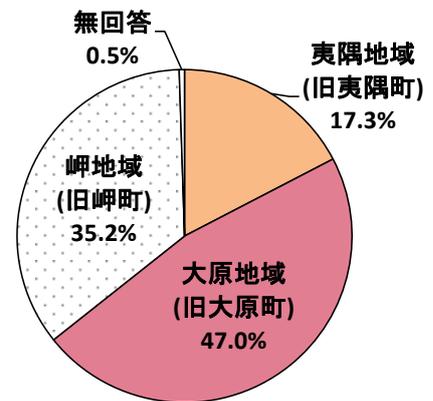
3. 職業

	回答者数	構成比
会社員	237	30.2%
農林業・水産業	11	1.4%
自営業・経営者	59	7.5%
公務員・団体職員	82	10.5%
パート・アルバイト	146	18.6%
主婦・家事専業	97	12.4%
学生	48	6.1%
無職	83	10.6%
その他	17	2.2%
無回答	4	0.5%



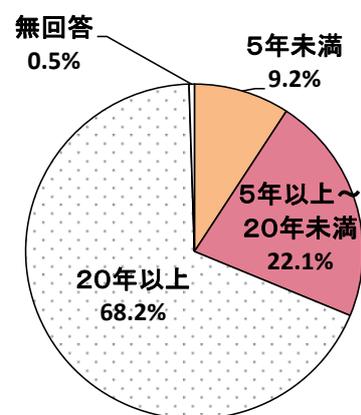
4. 居住地域

	回答者数	構成比
夷隅地域(旧夷隅町)	136	17.3%
大原地域(旧大原町)	368	47.0%
岬地域(旧岬町)	276	35.2%
無回答	4	0.5%



5. 居住期間

	回答者数	構成比
5年未満	72	9.2%
5年以上～20年未満	173	22.1%
20年以上	535	68.2%
無回答	4	0.5%



<回答結果>

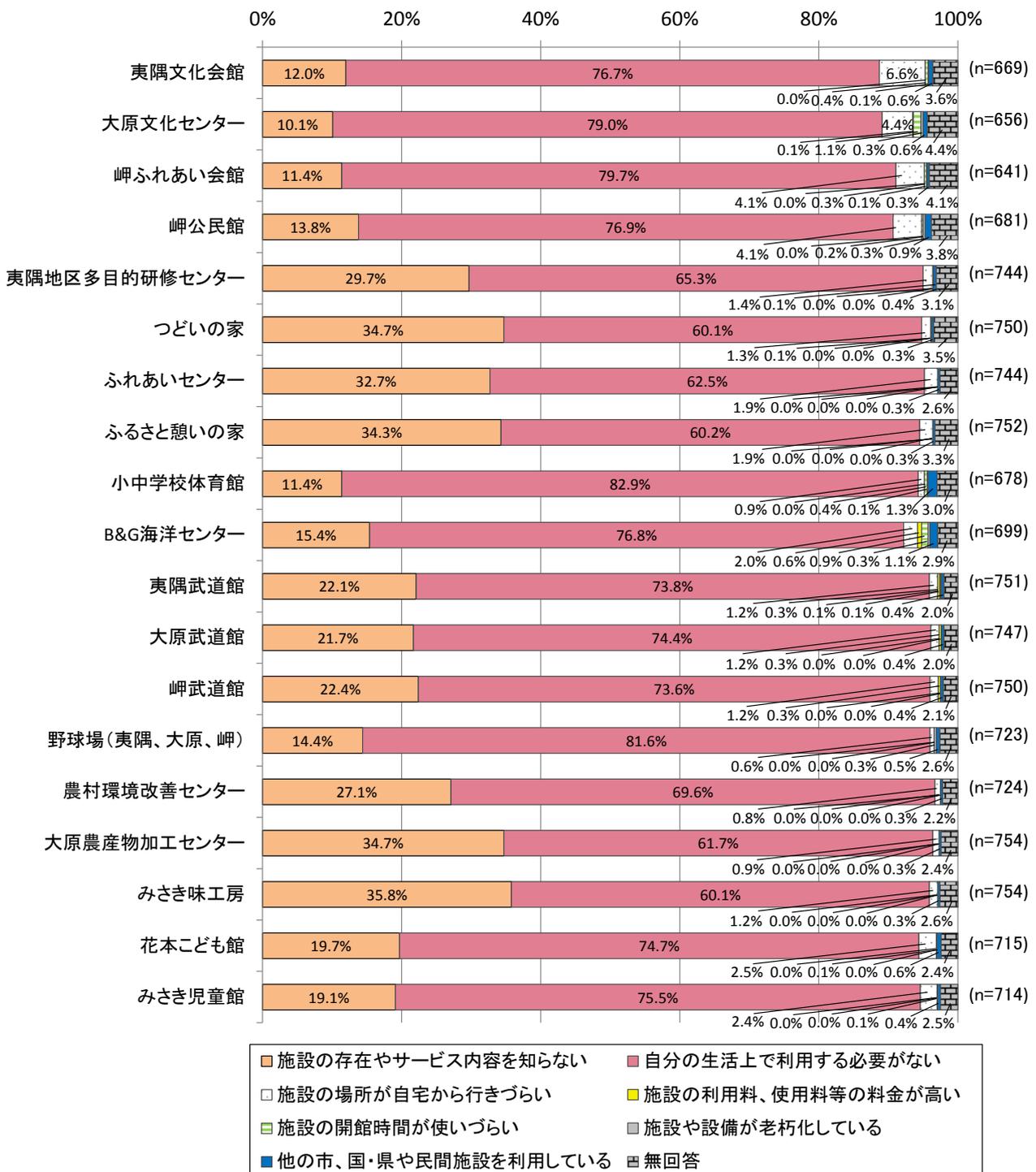
1. あなたご自身は、次の公共施設をどのくらい利用していますか。

- ・「よく利用している」割合は大原文化センターの5.1%が最も高い回答を得ました。また、「時々利用している」と合わせた割合は、岬ふれあい会館の14.5%が最も高い回答を得ました。
- ・「利用したことがない」割合は大原文化センター、岬ふれあい会館を除き半数を超えています。



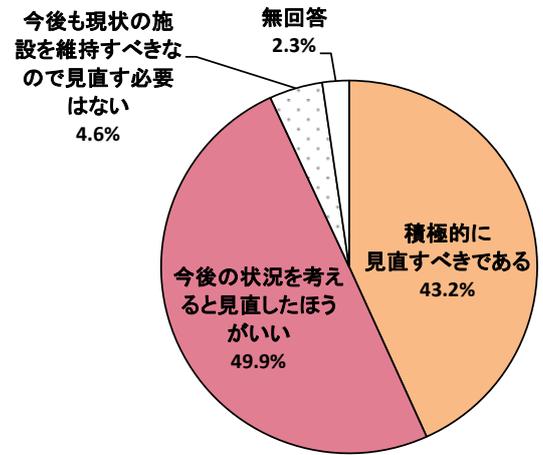
2. 前問で、「ほとんど利用しない」「利用したことがない」と回答された施設についてお聞きします。
その理由は主にどのようなことでしょうか。

- ・「施設の存在やサービス内容を知らない」と回答した人がつどいの家やみさき味工房などで3割を超えています。
- ・いずれの施設も「自分の生活上で利用する必要がない」回答が最も多くなっています。
- ・夷隅文化会館は「施設の場所が自宅から行きづらい」と回答した人が6.6%と比較的多くなっています。



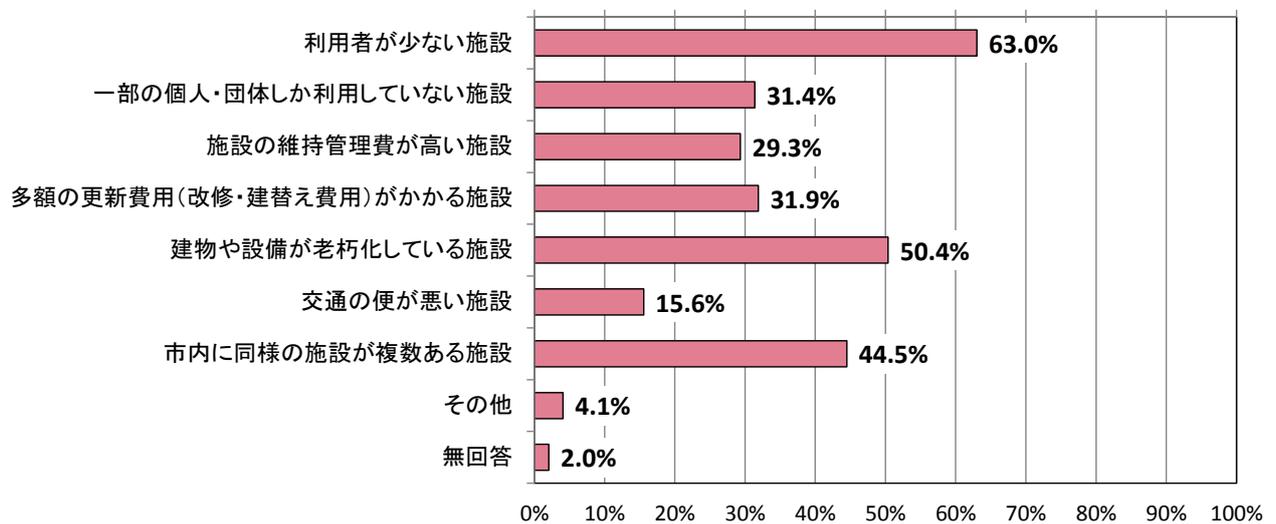
3. 今後、人口減少や少子高齢化が進展する中で、公共施設のニーズが変化することが想定されます。そのような将来を見据えて公共施設のあり方を見直すことについて、あなたはどのように考えますか。

- 「積極的に見直すべきである」、「今後の状況を考えると見直した方がいい」と回答した人がそれぞれ4割以上となりました。
- 「今後も現状の施設を維持すべきなので見直す必要はない」と回答した人は5%未満でした。



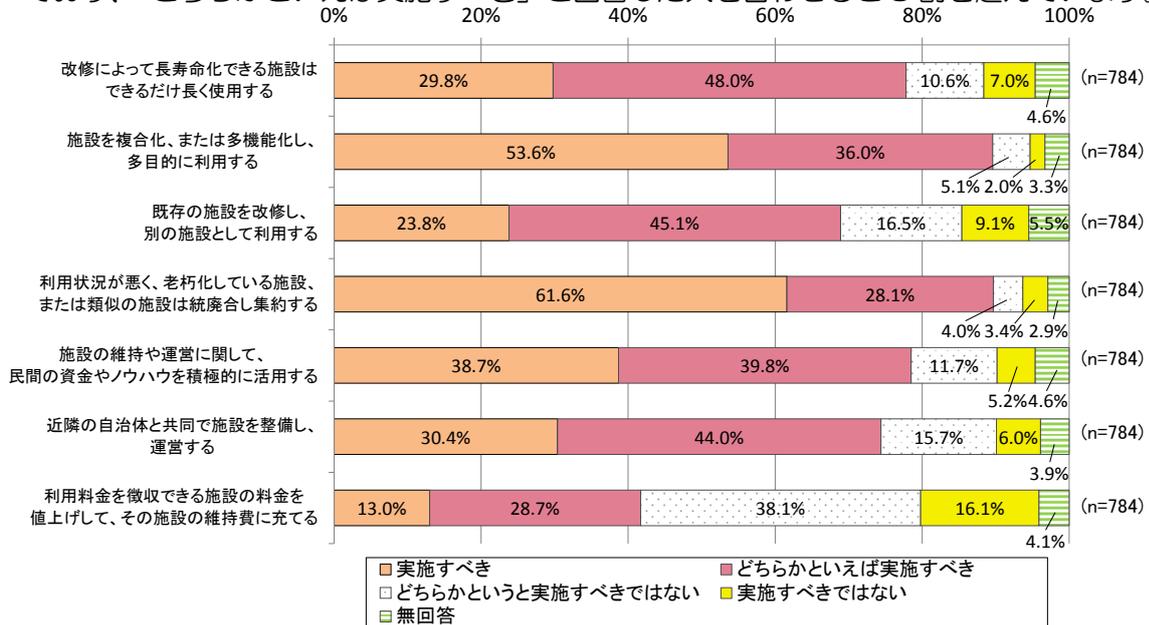
4. 市の公共施設は老朽化に伴い、改修や建替えの時期が今後集中することが予測されています。そのような中で公共施設の見直しを行う場合、あなたはどのような施設から見直していくべきだとお考えですか。○で3つまで選んでください。

- 「利用者が少ない施設」と回答した人が63.0%で最も多く、次いで「建物や設備が老朽化している施設」、「市内に同様の施設が複数ある施設」と回答した人が多く4割を超えました。
- 「交通の便が悪い施設」と回答した人は15.6%と選択肢の中では最も少ない回答でした。



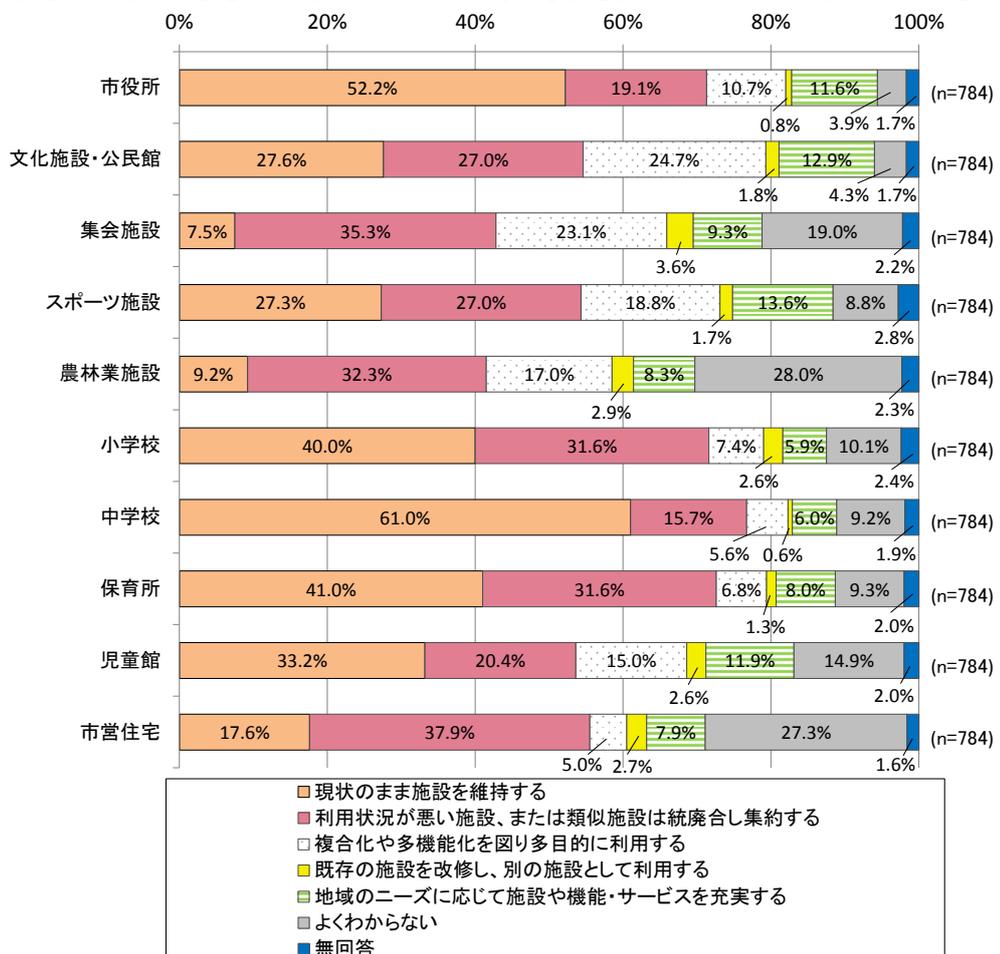
5. あなたは、今後の公共施設のあり方をどのようにすべきだとお考えですか。

- ・「統廃合、集約」、「多機能化、多目的利用」を「実施すべき」と回答した人がそれぞれ半数を超えており、「どちらかといえば実施すべき」と回答した人を合わせると8割を超えています。



6. 今後、少子高齢化や人口減少が進展し、地域の状況や公共施設へのニーズが変化する中で、次の公共施設はどのような方向性で整備すべきだとお考えですか。

- ・中学校、市役所については「現状のまま施設を維持する」と回答した人が半数を超えています。
- ・市営住宅や集会施設、農林業施設を「現状のまま維持」と回答した割合は2割を下回っています。
- ・その他の施設は、「現状のまま維持」や「統廃合し集約する」などで回答が分かれています。



【アンケート調査結果の概要】

1、公共施設の利用状況について

結果と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・大半の施設で「利用したことがない」割合が8割以上を占めており、全体として「よく/時々利用している」割合が1割未満となっていますが、文化会館等を「よく/時々利用している」割合は1割台です。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用しない理由では、「自分の生活上利用する必要がない」を選んだ人がいずれも多く、集会施設や農林業施設は「施設の存在やサービス内容を知らない」と回答した人も多くなっています。 →施設自体の地域性があるものの、<u>市民への認知がされていない施設が多いと考えられます。</u>

2、今後の公共施設のあり方について

結果と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような施設から見直すべきかの質問では、「利用者が少ない施設」が63.0%、「老朽化している施設」が50.4%、「市内に複数ある施設」が44.5%の回答がありました。 →市内に複数ある施設の見直しへの肯定意見が多く、<u>合併による機能重複を市民が感じているのではないかと考えられます。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・今後のあり方については、「統廃合・集約」・「複合化・多機能化」について「実施すべき」・「どちらかといえば実施すべき」という回答が9割近くありました。 →<u>市民意見でも、「集約化」や「多機能化」が今後の方向性として支持を得ています。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・「官民連携」については9割近くが「活用すべき」と回答しました。 →<u>「官民連携」についても市民の理解が得られていると考えられます。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・用途別の今後のあり方については、市役所や中学校については「現状のまま維持すべき」という回答が半数以上を占めています。 →<u>市役所や中学校については地域1機能の配置の継続が方向性として考えられます。</u> ・集会施設や農林業施設、市営住宅については「現状維持」という回答は2割以下となりました。 →<u>集約化や複合化など現在の施設のあり方の見直しが方向性として考えられます。</u> ・その他の施設は「現状維持」や「統廃合・集約」などで意見が分かれている傾向にあります。 →<u>個別の利用状況や老朽化状況を考慮した判断が必要と考えられます。</u>

3、自由記述について

結果と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・自由回答では、インターネット環境や図書機能の整備についての回答が多くありました。 →<u>図書館設置についてニーズがあるほか、3施設にある図書室の集約化や充実化が求められています。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設でのイベント・企画や情報提供・広報に関する意見が多くありました。 →市の特徴として民間の興行施設が少ないため、<u>利用者を増加させる企画や情報提供が求められているのではないかと考えられます。</u>